



日本社会福祉教育学会

Japanese Society for the study of Social
Welfare Education

NEWS LETTER No.43

事務局

〒998-8580 山形県酒田市飯森山 3-5-1

東北公益文科大学 小関研究室気付

TEL 0234-41-1288 ☎ : info@jsswe.org <http://jsswe.org/>

2023年11月30日発行

目次

1. 巻頭言	1
理事就任にあたって（日本社会福祉教育学会 理事 工藤 英明）	
理事就任にあたって（日本社会福祉教育学会 理事 Virág Viktor）	
2. 日本社会福祉教育学会 第19回大会	3
3. 総会報告～日本社会福祉教育学会 2023年度総会～	6
4. お知らせ	7
5. ご挨拶（第6期ニュースレター編集委員）	7
6. ご紹介（第7期ニュースレター編集委員）	8
7. 編集後記	10

1. 巻頭言

理事就任にあたって



日本社会福祉教育学会 理事 工藤 英明（青森県立保健大学）

この度、理事に就任しました工藤英明と申します。微力ながら社会福祉教育と学会の発展に尽力させていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。

理事 工藤英明会員

さて、まずは自己紹介から、大学卒業後、障がい、高齢、医療分野の相談員等 15 年ほど臨床経験を積んだ後、現在に至っております。外部団体関連では、青森県社会福祉士の役員を 10 年ほど経験し、県士会社団法人化時には事務局長を、現在は監事として関わっています。ちなみに、2026 年青森県で日本社会福祉士会の全国大会が開催予定で、既に実行委員会も立ち上がり準備しております。ご都合があえれば青森大会へのご参加をお願いします。

自身が所属する学会での役員は初体験です。過去、他所属学会では大会事務局・実行委員や査読委員などの経験はありますが、それぞれルールは様々でしたので、本学会のルールを把握

し、スムーズな学会組織運営に貢献したく思います。

社会福祉教育に関しては、学会員ではありますが、恥ずかしながら今まで研究として取り組んではいません。教育面では、学科における社会福祉士養成担当科目として、演習やソーシャルワーク論の一部と実習責任者を担うと同時に、学部共通科目と大学院で多職種連携科目を担当しています。学部共通科目では、社会福祉学科、看護学科、理学療法学科、栄養学科の学生を対象に、大学院では、看護師、保健師、医師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、歯科医師等を対象とした講義・演習を担っています。したがって、社会福祉教育分野での興味関心は、ソーシャルワーカーを目指す学部学生への教育はもとより、関連他職種への社会福祉的視点やソーシャルワークをどのように伝え、理解を促進し、現実社会での多職種連携において、他分野からの歩み寄りをどのように促進するかなどを課題と捉えています。教育全般では、特に、演習系科目を通じた実践スキル獲得手法や多職種連携教育 (IPE: Interprofessional Education) に日々工夫を凝らしているつもりです。さらに、所属外での教育活動では、介護支援専門員の法定研修や認定介護福祉士、認知症介護実践者研修等にも携わっており、社会人専門職への体系的教育のあり方も日々検討しているところです。

さいごに、昨今生成 AI の社会での活用と課題が注目されています。知識は ICT 活用により補える社会となりました。また、介護ロボットによる感情交流の実証実験も始まっているようです。今後、様々な専門職の領域を AI が担うと予想される社会で、社会福祉を担う専門職は何かコアとして残り、その部分をどのように学ばせていくのかを学会活動を通して見つめてみたいと考えています。

理事就任にあたって

日本社会福祉教育学会 理事 Vir ág Viktor (日本社会事業大学)

日本社会事業大学の Vir ág Viktor (ヴィラーグ ヴィクトル) と申します。学部生時代は、東京大学で福祉社会学を扱ったゼミに所属し、そこで取り組んだ卒業研究をきっかけに福祉業界に辿り着いた者です。卒業後、日本社会事業大学の大学院と社会事業研究所で 9 年間を過ごしました。当時、多文化ソーシャルワーク教育について研究していたため、学部や専門職大学院の授業でそのテーマの関連で何回かゲスト講師を務めました。同時に、首都圏において他にもいくつかの福祉系大学等で国際社会福祉学などを非常勤で教えるようになりました。そして専任教員としては、5 年間、長崎国際大学でソーシャルワーク理論系の講義科目や演習・実習教育を中心に社会福祉士養成に携わりました。昨年度より、母校に戻り、同じく理論系科目、演習・実習、また学部と大学院の国際系の授業を担当しております。



理事 ヴィラーグ
ヴィクトル会員

この度、日本社会福祉教育学会の理事に選出して頂き、誠にありがとうございます。当学会に入会してから、数年ほど経っておりますが、研究発表やニュースレター記事の執筆、また学会誌の査読以外の具体的な関わりの経験が少なく、ベテランの理事の先生方より学ばせて頂きながら、会員の皆様にとって役に立てるような活動を展開できればと考えております。

具体的には、大会や研究集会などの学会イベントを担当する第 2 委員会に所属させて頂く予定ですが、たいへん光栄に思っております。その中で、他の委員の先生方と一緒に知恵と力を合わせて、会員の皆様が魅力的と思えるようなテーマで各種企画の準備・実施に努めたいと存じます。特に、任期中に関東大会も開催される予定になっているかと思いますが、多くの方々をお迎えできれば嬉しいです。また、これらのイベントは、是非とも非会員の方々にも関心をもって頂けるように努力することで、このような単発的な参加をきっかけに、入会と長期的な学会活動を促す機会として捉え、取り組みたい次第です。

主に従事してきた研究テーマは、文化等の多様性や国際福祉に関するソーシャルワーク教育を含みますので、任期中には、理事会や所属委員会において関連する企画の立ち上げに携わらせて頂くことができれば、幸いです。そして、学会としては、日本の社会福祉教育や国家資格者養成におけるこれらの分野の将来的な強化及び普及への貢献も期待されており、そのチャンスをいかに作れるか、皆様と一緒に考えていく覚悟を決めております。

2. 日本社会福祉教育学会 第19回大会

2023年8月26・27日、関西学院大学上ヶ原キャンパスにて日本社会福祉教育学会第19回大会「新・社会福祉士養成カリキュラムの実施状況と今後の課題」が開催されました。

大会1日目は、空閑浩人先生（同志社大学）の基調講演「福祉士養成新カリキュラムの特徴とソーシャルワーク教育の課題～研究、教育、実践の連動と循環による専門職養成を考える～」と題し、「2007年社会福祉士カリキュラム改正」の振り返りから社会福祉士・精神保健福祉士養成カリキュラム改正の背景、新カリキュラムのポイント、実習教育・実習指導の課題、教育という場で学生に何を伝えていく必要があるのか、これからのソーシャルワーク教育の課題は何かといったことをご講演いただきました。そして講演最後には、「今の時代にどのようなソーシャルワーク実践が求められているのかと、どのようなソーシャルワーカー養成が求められているのかは同一の問い」であり、「そのようなソーシャルワーカー養成のために、どのようなソーシャルワーク教育と研究が求められているのかが問われている」といった「研究、教育、実践の連動と循環」が大切であるといったお話をいただきました。



第19回大会（関西学院大学上ヶ原キャンパスにて）

午後は開催校企画ワークショップとして、「新カリキュラムに対応した実習及び演習プログラム開発ワークショップ」をテーマにコーディネーターを川島恵美会員（関西学院大学）、ファシリテーターを高杉公人会員（新見公立大学）、サンプルプログラム提供者として平尾昌也先生（関西学院大学）のもと開催されました。開催時、3つのグループに分かれ、演習や実習の課題を出し合い、その解決方法について話し合いが行われました。参加者の中には既に新カリキュラムを実施している会員もいらっしやったこともあり、とても学びが深まるワークショップとなりました。

大会2日目は、学会企画シンポジウム「新カリキュラムでのソーシャルワーカー養成教育における実習・演習の取り組み」と題し、コーディネーターを保正友子会員（日本福祉大学）のもと、シンポジストとしてご登壇いただいた先生方のご所属先での取り組みもふまえつつご発表いただきました。

はじめに中村美智代先生（龍谷大学短期大学部）より新カリキュラムに対応するこれまでの取り組みとして1・2年次での実施状況、新カリキュラムに対応した教育・実務専門家の方々へ向けた取り組み、実習をむかえる学生へどのような学習補充を行っているのかをご報告いただきました。

次に添田正揮会員（日本福祉大学）より社会保障審議会における実習見直しの方向性とポイントや実習教育の体系と構造についてご説明いただいた後、実践能力獲得に向かうためにはどのように実習教育を展開する必要があるのか、そのためにどのように実習を組み立てているのか、想定される到達目標に達成するために実習生に最適な教育提供が行われているのか否かをご報告していただきました。

最後に、宮本雅央会員（北海道医療大学）より「地域課題」に対応する社会福祉士にはどのような知識や技術が必要であるのか、そのためにどのような教育内容を提供する必要があるのかについてご報告をしていただきました。

午後は、「フードバンク、フードドライブ活動ボランティア」に関する文献レビュー研究や福祉・看護系大学においてワークショップ形式での防災・減災教育ツールの作成を試みることで学生の防災意識の変化の検証といった2つの自由研究発表が報告され、閉会となりました。

大会期間中、例年以上の猛暑に加え、突然の豪雨といった不安定な天気の中、会員の方々だけではなく非会員の方々も足を運んでくださいました。

ご参加いただいた皆さま、誠にありがとうございました！



【大会 1 日目（8 月 26 日）プログラム】

13:00~13:15	開会式
13:15~14:15	基調講演 テーマ：「福祉士養成新カリキュラムの特徴とソーシャルワーク教育の課題～研究、教育、実践の連動と循環による専門職養成を考える～」 講師：空閑浩人氏（同志社大学）
14:30~17:30	開催校企画ワークショップ テーマ：「新カリキュラムに対応した実習及び演習プログラム開発ワークショップ」 コーディネーター：川島恵美氏（関西学院大学） ファシリテーター：高杉公人氏（新見公立大学） サンプルプログラム提供：平尾昌也氏（関西学院大学） 目的 新カリキュラムに対応した、演習クラスまた実習指導クラスで、どのようなプログラムを展開することが可能か、参加者のアイデアを持ち寄って演習プログラムを開発することを目的とする。
17:45~19:30	情報交換会

【大会 2 日目（8 月 27 日）プログラム】

10:00~12:00	学会企画シンポジウム テーマ：「新カリキュラムでのソーシャルワーカー養成教育における実習・演習の取り組み」 コーディネーター：保正友子氏（日本福祉大学） シンポジスト： 宮本雅央氏（北海道医療大学） ※ 社会福祉士と精神保健福祉士の共通科目が増えたことに関する取組について 添田正揮氏（日本福祉大学） ※ 240 時間実習の実習・演習教育の円環（実習指導と実習、演習など）に関する取組について 中村美智代氏（龍谷大学短期大学部） ※ 240 時間実習を実施した経験について
12:00~12:45	総会
12:45~13:30	休憩
13:30~	自由研究報告

【参加者の声】

西村 愛（新潟県立大学）

勤務校は、幼稚園教諭・保育士養成メイン、社会福祉士を目指す学生は、毎年 1 学年 50 人定員の半分の 25 人程度です。コロナ禍の 3 年間、1 度も学会に参加しなかった私ですが、年明けから始まる新カリキュラムに不安を覚えて学会に参加しました。

基調講演の空閑先生のお話は、新カリキュラムのねらいについて、改めて確認することができました。また、参加する前に私が漠然と抱えていた不安や疑問について、空閑先生も同じようなことをおっしゃられていたため、勝手に共感してもらったような、癒されたような気分になりました。

今回の学会で、色々と勉強させていただいたことはあったのですが、特に平尾先生のサンプルプログラムは、大変分かりやすく良かったです。本学では、60 時間+180 時間実習を予定しているのですが、実習先に 60 時間の実習内容を伝えるにあたり、実習先によっては、依頼側の我々と受け入れ側とのイメージの擦り合わせに苦慮することが多々ありました。サンプルプログラムでは、短い実習期間で何



を目指すのか、厚生労働省のねらいと合わせた実習内容が紹介されており、勤務校の実習でも取り入れられる有用な内容でした。

また、開催校企画のワークショップでは、既に新カリキュラムを実施されている先生方と実習内容や様々な意見交換ができたのは、この学会ならではの思いでした。2箇所それぞれの実習に向けての事前指導や事後指導、2箇所を統括した事後学習など、どのような学びが必要であるか、グループでの話し合いと空閑先生の講演と併せて理解をさらに深めることができました。

有意義な学会でしたが、「2007年社会福祉士カリキュラム改正」前から社会福祉士養成に携わっている私としては、この15年あまりの間で見えてきた、複雑で重層的な社会問題のみならず、コロナ禍で人と人との関わりが希薄にならざるをえない状況下で、厚労省が掲げるような、期待される社会福祉士の役割は大きくなっている一方で、養成校でもグレーゾーンと言われる支援が必要な学生たちが増えてきて指導が難しくなっている状況や、そもそも果たして240時間、2箇所実習で、どこまで学ぶことができるのか、卒業後に向けた学びに繋げていく課題についても、皆さんと話をしたかったのですが、限られた時間では難しく、ちょっと欲張りすぎた内容かなと感じました。来年度も、第二弾新カリキュラムの展望と課題として話し合いができるといいなと思います。

【参加者の声】



開催校企画ワークショップにてグループワークを実施

石井千麻（群馬医療福祉大学）

初めに、同志社大学の空閑先生による基調講演「福祉士養成新カリキュラムの特徴とソーシャルワーク教育の課題」では、今回のカリキュラム改正の成果として、実習指導や実習プログラムに関する研修会や勉強会の開催・普及を通じ養成校と実習先施設・機関の連携が図られてきたことを挙げられた。一方で、実習教育をめぐる法人・施設間、養成校間（教員間）での意識の格差や、ソーシャルワークのあり方への議論と理解の必要性を訴えておられた。

この講演で印象深かったのは、ソーシャルワークの研究や実践が魅力的に感じられるかは、身近にいる教員やソーシャルワーカーによって影響されるという点と、実習先施設・機関と実習生の間を教員が「つなぐ」必要があるという点だった。昨今では福祉のマイナス面が強調されがちで、「魅力」「可能性」には焦点が当たりにくいのが、プラス面を身近な教員やソーシャルワーカーが示す必要性を感じた。

1日目の午後は、ワークショップ形式で、3グループに分かれて演習・実習の課題を出し合い、その解決方法について考えた。私のグループでは、「実習先によってプログラムの内容にばらつきがある。実習先と実習生とのマッチングを教員がするべき」「1回目の実習と、2回目の実習の引き継ぎをどうしていくか」等の課題が挙げられた。実際に240時間の実習が始まってみないと分からないが、ある程度想定できることは考えておく必要があると実感した。また、学生が実習で身につけてくるべき学びの形を教員側が具体的にイメージし、それを共通認識として実習先・機関も持てるようにする。実習先と養成校の希望する実習内容が乖離しないように、そのパイプ役に教員になる必要があることをここで再確認できた。

2日目は、「新カリキュラムでのソーシャルワーカー養成教育における実習・演習の取り組み」についてのシンポジウムが行われた。龍谷大学短期大学部の中村先生、日本福祉大学の添田先生、北海道医療大学の宮本先生による3校のサンプルプログラムの紹介であった。まず、中村先生の取り組みでは、障害のある方と共に演劇や音楽を楽しみながら、学生がふれあう機会を持てる「ふれあい大学課程」が印象に残った。共通の目的を通じて、お互いが感動したことを共有できるという点である。次に、添田先生は、実習の期間を意識すると忘れがちになる実習細部の役割や、実際には何を学んでくるかについて、実習後の評価を含めて話された。最後に、宮本先生は、人の生活を捉えるために、起床から就寝までの行動を学生が実際に現地に移住して学ぶという内容を紹介された。

新カリキュラムのソーシャルワーク実習Ⅱを行った1年後に、新たに出た課題や工夫できた点を持ち寄り、それを養成校間で共有し、今後のより効果的なソーシャルワーク実習につなげていくことを目指して閉会した。

3. 総会報告～日本社会福祉教育学会 2023 年度総会～

第19回大会開催期間中の2023年8月27日(日)12:10～12:40に、関西学院大学上ヶ原キャンパスG号館202教室において2023年度日本社会福祉教育学会総会が開催されました。以下の議題について議事を行い、全て承認されました。

議事次第

- 第1号議案 2022年度 事業報告(案)
- 第2号議案 2022年度 決算報告および監査報告(案)
- 第3号議案 2023年度 事業実施中間報告 兼 補正事業計画・予算(案)
- 第4号議案 2024年度 事業計画(案)
- 第5号議案 2024年度 予算(案)
- 第6号議案 第7期役員選出について(案)

報告事項

名誉会員の推挙について

開会に先立ち、志水会長より挨拶および第7期役員選出選挙における瑕疵についてお詫びがあった。その後、竹中麻由美会員を議長として選任し開会した。



1. 議事

(1)「2022年度事業報告(案)」および「2022年度決算報告および監査報告(案)」について

竹中議長より議案書「第1号議案 2022年度事業報告(案)」および「第2号議案 2022年度決算報告および監査報告(案)」を併せて審議したいとの提案があり、承認した。小関事務局長からの説明の後、質問時間を経て(質問なし)、賛成多数で承認した。

(2)「2022年度事業実施中間報告兼補正事業計画・予算(案)」について

小関事務局長からの説明の後、阪口理事から議案書における「2023年度補正予算(案)」内「支出合計」の値に誤りがあるとの指摘があった。「支出合計」を修正した内容で審議した結果、賛成多数で承認した。

(3)「2024年度事業計画(案)」および「2024年度予算(案)」について

竹中議長より議案書「第4号議案 2024年度事業計画(案)」および「第5号議案 2024年度予算(案)」を併せて審議したいとの提案があり、承認した。小関事務局長からの説明の後、質問時間を経て(質問なし)、賛成多数で承認した。

(4)「第7期役員選出」について

令和5年度選挙及び第6期理事会協議の結果による第7期理事及び監事の選出に関して小関事務局長から説明があり、質問時間を経て(質問なし)、賛成多数で承認した。

<理事>

ヴィラーク ヴィクトル(日本社会事業大学)

川島 恵美(関西学院大学)

工藤 英明(青森県立保健大学)

小関 久恵(東北公益文科大学)

小山 隆(同志社大学)

阪口 春彦(龍谷大学短期大学部)

志水 幸(北海道医療大学)

白川 充(仙台白百合女子大学)



西川 ハンナ（創価大学）
保正 友子（日本福祉大学）



<監事>

川廷 宗之（大妻女子大学）
福山 和女（ルーテル学院大学）

2. 報告

（1）名誉会員の推挙について

小関事務局長から、理事会員の発議により、黒木保博会員を名誉会員に推挙したとの報告があった。

以上

4. お知らせ

コンテンツ募集中！！

イベント開催情報、便利で役に立つ教育ツールや教材、教育実践 tips(コツや秘訣)、おすすめ動画やウェブサイトなどのコンテンツも、随時受け付けています。皆様にとっておきの情報を、**事務局 (nl.jsswe@gmail.com) まで**とどしどしお寄せください。

5. ご挨拶（第6期 ニュースレター編集委員）

日頃より会員の皆様におかれましては、本学会の運営にご支援ご協力いただき誠にありがとうございます。

本ニュースレターは、本学会設立時より発行されてきました。今期の活動の大きな変更点は、紙面での発行からオンライン上での発行へと切り替わったことです。コロナ禍の活動となりましたが、委員会メンバーの協力のもと定期的な発行ができたのが何よりの自慢といえます。ニュースレターの委員会もオンラインとなり、紙面でのお届けはなくなりましたが、インターネットを通じ、いつでもどこでも本学会のニュースレターをご覧いただくことが可能となりました。隙間時間にお目通しいただけますと幸いです。

最後になりましたが、第6期の在任期間には会員の皆さまをはじめ、多くの方々に本ニュースレター発行に向け、ご尽力いただきましたこと心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

第7期は、保正友子会員（日本福祉大学）のもと、さらに実りあるニュースレターにさせていただくことを祈念申し上げます。

誠にありがとうございました。



第6期ニュースレター編集委員委員長 西川ハンナ
編集委員 安藤 幸
島谷 綾郁
小関 久恵

6. ご紹介（第7期 ニュースレター編集委員）



編集委員長
保正友子

愛知県知多郡美浜町にある日本福祉大学で教員をしています。この度、ニュースレターの編集委員を務めることになりましたので、よろしくお願い致します。

大学では、社会福祉学部長を行う傍ら、ソーシャルワークの基盤と専門職、社会福祉専門演習(3・4年ゼミ)、ソーシャルワーク演習・実習、大学院の研究指導等を担当しています。ソーシャルワークの基盤と専門職は自ら作成した動画を使ったオンデマンド授業、社会福祉専門演習(3・4年ゼミ)や実習・演習は対面で、大学院での研究指導は Zoom とメールとチャット機能を使って行っています。内容の多様性だけでなく、教授方法の多様性が求められる時代になったことを実感しています。

研究テーマはソーシャルワーカーの実践能力、業務マネジメント、実践研究支援、ソーシャルワーク教育についてです。今年の4月に、『49の実践事例から学ぶ 医療ソーシャルワーカーのための業務マネジメントガイドブック』(中央法規)を、現場実践者30人程と一緒に出版しました。研究者と実践者と立場は異なりますが、現場実践の質向上に資する活動を一緒に行うのは大変面白いです。

また、多様な研究・教育に関する活動に携わっていますが、ここでは主催している日本ソーシャルワーク教育学校連盟東海・北陸ブロック・ソーシャルワーク実習演習研究会を御紹介します。学生に対して新しい知識や技術の教育を行う場合、教える側も常に自己研鑽しながら教授法を向上させる必要があります。しかしながら、日頃から活用できる場が少ないために、この研究会を立ち上げました。教員と現場実践者が、実習指導や演習方法についてアイスブレイクや模擬授業を行い意見を交わします。現在は2カ月に1回、オンラインで実施していますので、全国から参加可能です。関心のある方は、研究会事務局までご連絡ください。(ensyuuken@ml.n-fukushi.ac.jp)

そして、本学会にも長年関わってきました。現在は学会の課題研究として、ICTを活用したソーシャルワーク演習教育のあり方について調査研究を行っているところです。その結果については、また皆様へお返しします。ニュースレターでも、皆様の関心のある記事を発信していければと思いますので、積極的に皆様の声をお寄せいただけますと幸いです。

このたび、ニュースレター担当を担当させて頂くことになりました竹中麻由美です。岡山県倉敷市に位置する川崎医療福祉大学で社会福祉士養成に携わっています。大阪の「特例許可老人病院」（という名称を記憶していらっしゃる会員は、どの程度いらっしゃいますでしょうか？）で医療ソーシャルワーカーとして十数年勤務した後、現在の職場へ異動し、早や20年が過ぎました。この間、社会福祉士養成カリキュラム及び学科内のカリキュラム変更に遭遇し、今回も2023年度に新カリキュラムでの実習を担当し、怒濤の夏を過ごしました。本校は開学以来、医療機関での実習を任意実習として実施していた歴史があり、着任後、正式科目として社会福祉士配属実習のアドバンス実習の位置づけとしました。保健医療機関という場で展開されるソーシャルワークについて、自らの経験を活用しつつ後進を育ててきました。



編集委員
竹中麻由美

研究歴のないまま、ご縁に飛びついてスタートした教員生活では、現場でクライアントを相手に模索していたのと同様、学生たちに、何を・どのように伝えれば良いのか、悩み、迷うことばかりでした。この学会は、そんな私に一筋の道を示して頂ける存在でした。

厚生労働省から示された教育内容(ねらいと教育に含むべき事項)について、ソーシャルワーカーを目指し入学してきた社会経験のない学生達に対しいかに伝えるのかは、常に乗り越えな

いといけない課題でした。新カリキュラムをみても、特に実習教育では、達成課題と実習プログラム、実習計画、実習評価を通じて、学生と実習施設・機関、そして養成校の三者の協働が一層求められています。ソーシャルワーカーが得意としてきた連携機能をいかに発揮できるかが問われていると感じます。学生のその先に居るクライアントに対して、私たちは何を示せるのか、学生に対し何を・どのように教育しているのか、説明責任があると考えます。

実践力を備えた学生をどのように養成するのか、この学会で皆様と意見を交換し刺激を与え合えることを楽しみにしています。ニュースレターが皆さまをつなぐ手段となるよう、努めて参ります。

最後に、皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。どうぞ宜しくお願いいたします。

第6期より引き続き事務局ニュースレター編集委員となりました職業教育研究開発センター客員研究員の島谷綾郁（しまや あやか）と申します。

現在はいくつかの大学にて非常勤講師として「刑事司法と福祉」や「ソーシャルワーク演習」などを担当させていただいております。その他、大学院（博士後期課程）にも進学させていただいております。

大学院では、法学（刑事法）について学んでおります。「なぜ、福祉を専門としている人間が刑事法？」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。

前職では、刑務所にてソーシャルワーカーとして、主に罪を犯した障害・高齢受刑者の出所時の調整や各施設機関などとの連携、受刑中の教育プログラムの指導などといったことを約10年担わせていただきました。この間、疑問に思い、壁にぶち当たり、腑に落ちず葛藤したことばかりでしたが、罪を犯した人を支援する時間は、とても学びの多い充実した時間でした。

これらをふまえ、現在は、その時に感じた「なぜ？」を整理し、こたえを探すべく、福祉をベースに持ちながら、異なる分野である法学（刑事法）について学ばせていただいております。

日本社会福祉教育学会の会員の皆さまの中には、小さなお子さまを抱えながら、日々、教育や研究を進めている方もおられると思います。私自身、小さな子を抱え、育児に忙殺されそうになりながらも研究等を進めておりますので、そういった境遇の方々が諦めないうで闘い続けることができ、ガス抜きにもつながるような内容も後々、ニュースレターで発信できたらよいな、と考えております。

今後、本学会により多くの現場の方や研究者の方が所属し、熱い議論などを交わすことで生き活きとした社会福祉教育の発展につなぐことができる、ニュースレターはそのための一助になることができたらよいなと思っております。そのためにも、会員の皆様方の温かいご意見やご批判を賜りながら、ニュースレター編集委員の一人として微力ですがお力になればと思っております。

ニュースレターでは、イベント開催情報、便利で役に立つ教育ツールや教材、教育実践 tips(コツや秘訣)、おすすめ動画やウェブサイトなどのコンテンツも、随時受け付けております。皆様にとっておきの情報を、**事務局 (nl.jsswe@gmail.com) まで**お寄せください！

第7期に関しましても、引き続き、よろしくお願い申し上げます。



編集委員 島谷綾郁

7. 編集後記

秋も深まり、イチョウの葉が鮮やかな金色に色づく季節を迎えました。朝晩と日中の気温差が激しい日もありますが、過ごしやすい季節となりました。

秋と言えば「食欲の秋」「読書の秋」「スポーツの秋」「行楽の秋」…。

皆さまは、どのような秋をお過ごしでしょうか。

私は毎年この時期は、学会や研修会、勉強会など目白押しになり、家にいる時間も少なくなってしまう。ついつい体調を崩しやすくなりますが、「食欲の秋」だけは毎年守っているせいか、不思議と体調が悪くなりすぎることはありません。これからも引き続き、たくさん食べ、たくさん笑い、たくさん身体を動かしながら乗りきりたいと思います。

今年も残すところあと1か月！悔いのない2023年を過ごしたいですね。

会員の皆さまにおかれましてはこれから益々お忙しくなるかと思いますが、ご自愛くださいませ。

本学会も第7期が始まり、ニュースレター編集委員の顔ぶれも変わりました。引き続き、ニュースレターを通じてさまざまな情報を発信したいと思います。

それでは、2024年もよろしくお願いたします。



(ニュースレター編集委員 島谷綾郁)